ふゆうりゅうしじょうぶつ

えすぴーえむ

浮遊粒子状物質 (SPM)

■ 用語解説 ■

浮遊粒子状物質 (SPM) は、大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が $10 \mu\text{m}$ ($1 \mu\text{m}$ は 1m の 100 万分の 1) 以下のものである。微小なため大気中に長期間滞留し、肺や気管などに沈着して、呼吸器に影響を及ぼす。SPMには、工場などから排出されるばいじんや粉じん、ディーゼル車の排出ガス中に含まれる黒煙など人為的発生源によるものと、土壌の飛散など自然発生源によるものがある。